



■ 登呂遺跡のような灌漑水稲耕作をおこなう文化が静岡に定着する前（弥生時代中期前葉頃）、静岡市北西部の佐渡山周辺には、大型の石クワを用いた畑作文化が展開していたと考えられます。静岡大学考古学研究室が実施した手越向山遺跡の発掘調査では、この時期の畑跡と考えられる畠状遺構（畠状遺構）が発見されました。この展示では、東日本では最古となるこの畠状遺構の分析をとおして、静岡の農耕文化形成初期の実像にせまります。

■ 佐渡山から手越向山遺跡・富士を望む

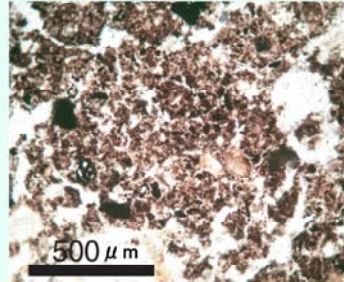
2010年
12月7日(火)～27日(月)
開催場所
静岡大学附属図書館
静岡本館ギャラリー
開催時間
平日午前9時～午後5時

静岡の農耕起源をさぐる

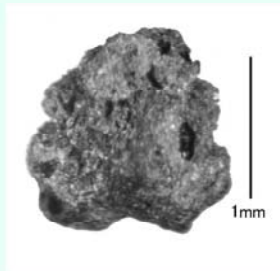
－静岡市手越向山遺跡の調査・分析から－



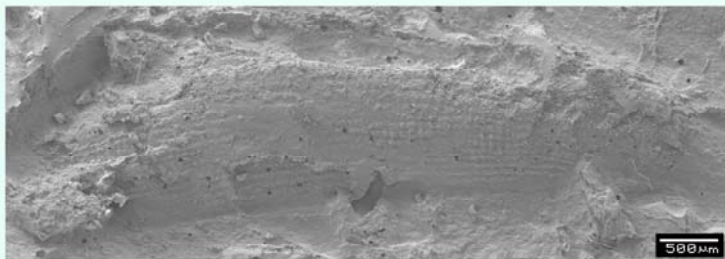
■ 手越向山遺跡で発見された畠状遺構下部の耕作溝



■ 畠状遺構覆土薄片の顕微鏡写真。畑土壌の構造が見られる



■ 畠状遺構覆土中から検出されたアワ-キビ炭化種子



■ 丸子セイゾウ山遺跡出土土器に残された圧痕のレプリカ・SEM画像。顆粒状突起に覆われたコメ(粳)表面の状況が見える。

■ 主催
 静岡大学人文学部考古学研究室
 e-mail: jskino@ipc.shizuoka.ac.jp (篠原和大)
 ■ 協力
 松田順一郎、(株)パレオ・ラボ、(株)古環境研究所
 静岡大学理学部塚越研究室

■ お問い合わせ:
 静岡大学附属図書館(静岡館)情報サービス担当
 Tel: 054-238-4479
 e-mail: lib-infsvr@adb.shizuoka.ac.jp